



# リアンつくば Lien Tsukuba

## 茨城の医療を考えよう 第2回 筑波大病院の地域医療再生プラン

### 全国初の試みで 活性化した水戸協同病院

当院との連携によって成果を上げた水戸の例をご紹介します。



水戸協同病院／水戸地域医療教育センター

#### ● 苦境に立たされた基幹病院

水戸を中心とした地域の基幹病院である水戸協同病院。風邪の初期症状から大学病院で行うような高度な治療まで、さまざまな治療にあたっています。救急搬送患者も積極的に受け入れ、昨年は市内でもトップクラスとなる約4,500台の救急車を受け入れました。しかし、数年前までは、医師数が激減して大きな苦境に立たされていました。このような医師不足は茨城県全体の課題でした。

筑波大学附属病院は地域医療再生プランを立ち上げ、2009年に水戸協同病院内に「水戸地域医療教育センター」を設置し、11名の医師を派遣しました。高度医療と教育を担う医師と、地域医療を担う民間病院の医師が連携して「患者さんの診療」「医療者への教育」「研究活動」を実践する、全国で初めての試みが始まりました。

医師が増えたことで患者さんの数が増加し、診療の幅も広がりました。さらに、地域医療と高度医療を同時に学べることから、水戸協同病院で研修したいという若い医師が増えたことも、患者さんのさらなる増加につながりました。

#### ● 全国初、「医-医」と「看-看」の連携

「大学病院と民間病院の連携」の他に、看護領域における連携も国内で初めての試み

でした。水戸協同病院の看護師が当院の看護職研修に参加したり、専門分野を持つ看護師がセンターに派遣され、患者さんのケアについてさまざまな指導を行いました。現在は、感染管理を専門とする看護師が、感染予防のための手洗い指導や看護の現場で起こる相談に応じています。この連携は病院全体の活性化につながり、看護職への応募件数や病棟看護師の数も増加しました。

プランが開始されて5年。所属組織や職種を飛び越えて、互いに協力しあい、地域医療に貢献するために取り組みを続けています。スタッフ間でコミュニケーションを取りやすい部屋の工夫や、偶然、同郷・同世代の医師が集まり、地元のために一緒に頑張ろうという雰囲気も一助となったようです。

#### ● 住んでいる地域で高度な医療を

水戸協同病院の特長は、専門医同士が密

に連携を取り合い、総合的に診療を行っていることです。大学病院と民間病院のメリットを活かし、水戸協同病院にしかできない「診療・教育・研究」を展開することに、「高いプライドを持つとともに、重い責任も感じている」のだそうです。つくばまでの移動が難しい患者さんに、住んでいる地域で高度な医療が受けられるようにすることを目指し、診療科の拡充や医師の定着にも取り組んでいます。

地域に根ざした病院だからこそできる医療があります。患者さんが、普段の生活環境をできるだけ変えずに病気を治せ、かつより患者さんに寄り添う医療の実現のためには、大学病院と地域の病院が連携し合うことだけでなく、患者さんの理解と協力も欠かせません。みんなで茨城の医療を作っていきましょう。



【上写真】左から、佐々木良枝看護師長(水戸協同病院)、佐藤浩昭教授(水戸地域医療教育センター)、秋月浩光副院長(水戸協同病院)、堤徳正看護師長(水戸地域医療教育センター)



つくばニュース

# ロシア国民経済行政学アカデミーが視察のため来院

10月14日、ロシア国民経済行政学アカデミーより視察団が訪れました。ロシア各地にある医療機関の院長・副院長クラス20名で構成されており、日本の医療システムを学び、ロシア医療の発展へつなげていくことを目的としています。当日は、当院の先進医療についてのプレゼンテーションのほか、陽子線医学利用研究センターの治療施設など最新設備を見学、設備や操作について意見を交わしました。当院では、従来から海外の医療者の受け入れ等を積極的に行っており、今年度には経

済産業省の事業である「外国人患者受け入れの事業性評価に向けた実証調査事業」に採択されました。これにより今後はますます「筑波大学附属病院における医療の国際化」が進んでいくでしょう。9月末には松村院長をはじめとする当院の視察団がカザフスタンを訪れ、現地の医療者とディスカッションを行いました。その他にもさまざまな計画を予定しており、活発な医療交流が期待されます。



## イベント報告 ホスピス緩和ケア週間

「ホスピス緩和ケア週間」とは、日本ホスピス緩和ケア協会が2006年よりはじめてもので、「世界ホスピス緩和ケアデー」を最終日とした一週間、ポスターの掲示およびセミナーの実施などを通して緩和ケアの普及啓発活動を行う期間です。当院では、10月6日～10日に「Cancer Week 2014 生活を支える緩和ケア」をテーマとして、口腔ケア、リンパ浮腫に関する資料提示とケアDVDの視聴のほか、抗がん剤治療中の副作用対策や、痛み止めを

用している患者さんが利用できる痛みの経過表などを配布しました。今はがん治療と同時に緩和ケアが受けられることをアピールしながら、立ち寄ってくださった方々のご質問にお答えし、がん患者さんのQOL向上を願って普及活動を行いました。



外来ロビーでのイベント風景

## イベント報告 臓器移植普及月間

毎年10月は、「臓器移植普及月間」です。当院ではこの時期を「臓器移植」という医療の啓発と、「いのち」を考える機会にしたいと考え、昨年度から病院玄関に展示等を行っています。今年は10月15日に「移植って何だろう・・・いのちへの優しさと思ひやり」と題したイベントを開催しました。また、移植の意思を表示した患者さんやご家族のニーズに対応できるよう、移植医療に関する医療スタッフや事務職員など、あらゆる職種28名が参加し、脳死下臓器移植発生時の机上シミュレーションを開催いたしました。常に最善の医療が提供できるよう、これからも日々努力していきたいと思ひます。



グリーンリボンは、世界的な移植医療のシンボルです。グリーンは成長と新しいいのちを意味し、「Gift of life」(いのちの贈りもの)によって結ばれた臓器提供者(ドナー)と移植が必要な患者さん(レシピエント)のいのちのつながりを表現しています。



スタッフの机上シミュレーション



患者さん・ご家族向けの展示

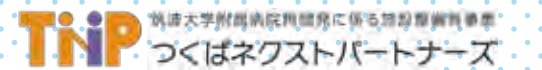


## 再開発プロジェクト 18 「清掃業務」

安らぎの場や季節感あふれる環境作りを行っています。

秋も深まり朝夕はめっきり涼しくなりましたが、いかがお過ごしでしょうか。9/1(月)～9/30(火)、けやき棟正面エントランスに、月見飾りを設置いたしました。小さなお子様が見月団子に駆け寄り、ご家族連れが「お月見だよ、ススキが綺麗ね」などとお話される姿が見受けられ、微笑ましく思いました。エントランスの飾りは、『清掃業務』で季節に合わせて企画しています。こうした院内の安らぎや癒しの環境創出も、TNPの業務の一環として取り組んでおります。

また今後は、冬季に向け、けやき棟中庭のイルミネーションを計画中です。今後も病院と一体となって、患者さんやご家族の皆様にお楽しみいただけるような取り組みを行ってまいりますので、どうぞよろしくお祈りいたします。



## カフェリアンのレシピ集 ..... 秋の食卓を「ケーキ・サレ」で温かく。



### ケーキ・サレ

【材料(パウンドケーキ型1台分)】(生地)小麦粉150g、ベーキングパウダー10g、卵1個、無脂肪乳100cc、コンソメキューブ1個 (具材)玉ねぎ1/2個、アスパラガス4本、ミニトマト6個、魚肉ソーセージ1本

【作り方】①玉ねぎはスライスして、アスパラガスは2cmの長さに切る。耐熱容器に入れて電子レンジで3分加熱し、塩、こしょうで下味をつける。②ミニトマトはスライスし、魚肉ソーセージは食べやすい大きさに切る。③ボウルに小麦粉、ベーキングパウダー、卵、無脂肪乳、コンソメを入れてよく混ぜる。④③に①、②の具材を加えてざっくり混ぜる。⑤クッキングシートを敷いたパウンド型に4を流し入れて180℃のオーブンで30～35分焼く。  
※1/8個分エネルギー46kcal、蛋白質4.4g、脂肪1.8g、炭水化物18.9g

「ケーキ・サレ」という料理をご存じでしょうか。パウンドケーキ型で焼かれた姿をみると甘いお菓子を想像するのですが、これはフランス料理のひとつで、フランス語で「塩のケーキ」という意味の塩味のパンケーキです。塩味の生地にチーズやベーコンなど好きな具材を入れて作ります。ご紹介するのは、脂肪を控えた食材を使用した低脂肪の「ケーキ・サレ」です。物足りない方は、野菜や肉などお好きな具材を入れてみてください。オープンで焼いた熱々の「ケーキ・サレ」で、深まりゆく秋の食卓を暖かく彩ってみてはいかがでしょうか。

(管理栄養士：岩部博子)



## 病院サポーター

さまざまなかたちで患者さんやご家族をサポートするスタッフをご紹介します。

### 「みんなラボ研究員チーム」

「みんなの使いやすいラボ (みんなラボ)」は、日常生活にあるモノの「使いやすさ」について、市民ボランティアが、利用者の視点から研究を行う場です。高齢者の方も多く、誰にとっても住み良い社会のあり方について考えています。今回、筑波大学附属病院について研究してもらいました。研究員の方にお話を伺ったところ、「利用者側と運営者側の二つの視点を合わせることで、新しい見方ができ

ました」とのこと。さまざまな角度から研究を行い、本院の使いやすさについて10項目の提言をいただきました。この内容は「みんなラボ四季報」に掲載されています。地域社会から信頼される病院を目指し、今後もみんなラボ研究チームの皆さまとより良い病院づくりに取り組んでまいります。

みんなラボ(筑波大学CUAR「みんなの使いやすいラボ」)  
TEL 029-879-7351(平日9時から17時)  
e-mail mado@tsukaiyasusa.jp  
ホームページ <http://tsukaiyasusa.jp/>





## TSUKUBA ホスピタルアート

当院の敷地内にある「病院ガーデン」をご存知ですか。筑波大学芸術専門学群の学生によって整備され、今年の4月にオープンしました。ガーデンにはさまざまなハーブや季節の花があり、リラックスできる空間が広がっています。

学生たちの企画のもと、当院ではガーデンプログラムを実施しています。9月には精神科デイケアの患者さんを対象に「ハーブクッキー&ティーを味わおう」というイベントを開催しました。庭園療法専門家のアナグリウスケイ子さんをアドバイザーに招き、

ガーデンで実際に摘みながらハーブの効用について学び、皆でハーブのお茶やお菓子を楽しんだり、ラベンダーのポプリを作ったりしました。今回は8名の患者さんが参加し、「元気になれた」「癒やされた」といった言葉をいただきました。

ガーデンは「筑波大学病院入口」バス乗車口のすぐそばで、誰でも気軽に立ち寄れる場所にあります。9月末にはコスモスの植え付けを行い、次回のイベントに向けた準備も進行中です。ぜひ足を運んでみてください。



(看護部：新沼館卓弥／アートコーディネーター：渡邊のり子)

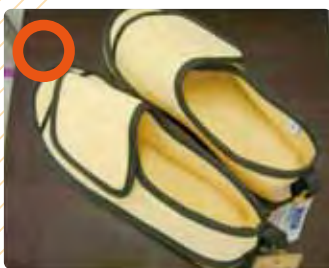
安全な医療のためのワンポイントをご紹介します。

### 病院生活のしおり

#### 「転倒・転落防止にご協力ください」

病院生活による環境の変化や体力の消耗から、廊下で転倒したりベッドから転落する恐れがあります。万一の事故を防ぐためにも、皆様のご協力をお願いいたします。

院内では「かかとが固定された室内履き」を



検査や治療で体力が消耗すると、脚の筋力が落ち、健康な人でも転倒してしまう方がいらっしゃいます。院内では、かかとがあり滑りにくい、安全な室内履きをご着用ください。

#### もしも転んでしまったら

骨折等がある場合、それらの治療が合わさることで入院が長引く可能性があります。転倒・転落の際はすぐに看護師をお呼びください。

(医療安全担当看護師長：高梨典子)

### インフォメーション

#### 看護師(新卒者・経験者)募集

応募資格	看護師・助産師の有資格者、または、2015年3月看護学校卒業見込みの方
応募方法	看護部HPのエントリーフォームに入力・送信後、以下の書類を提出してください ①履歴書(自筆、顔写真貼付) ②面接参考書(自筆) ③職務経歴書(※職種を問わず職務経験がある者) ④成績証明書(※新卒者のみ) ※①～③は当院指定の様式。看護部HPからダウンロード可
選考方法	面接
日程	看護部HPに掲載(※ご都合があわない場合はご相談ください)
提出先	〒305-8576 つくば市天久保2-1-1
お問合せ	筑波大学附属病院 総務課看護職員募集担当 TEL 029-853-3512/3514 E-mail byouin-jinji@un.tsukuba.ac.jp



当院では、キャリアも出身も学歴も、実にさまざまな職員が働いています。採用面接は、これまでの経験や現在のお考え、将来の目標などをお伺いし、ともに働く「仲間」になれるか、お互いが確かめ合う場だと考えています。お決まりの志望動機や飾り立てたコトバは必要ありません。なぜ当院で働きたいと思ったのか、率直なお気持ちをお聞かせください。楽しみにお待ちしております!

#### リアン 編集後記

今年の秋は「災害」が各地で多く、先日の台風の時は、茨城県下にも避難勧告や避難準備など随時配信されました。情報には敏感に、そして正確な情報を届けることが大切なのだということを改めて感じました。この「リアン」でも皆様に役立つ情報を届けられますようにと思っております。

(看護部：田村恵美、馬場玲子／総務課：丸橋崇、植田雅弘)